

令和3年9月3日

嬉野市議会  
議長 田中 政司 様

嬉野市庁舎検討特別委員会  
委員長 辻 浩一

## 嬉野市庁舎検討特別委員会報告書

令和3年6月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する

### 付託事件名 「嬉野市庁舎のあり方に関する調査研究」

#### 調査理由

嬉野市嬉野庁舎の耐震化及び老朽化に伴う改築について、近年改築又は改築予定の自治体を調査することで検討を行った結果、令和2年に竣工した神埼市の調査を行った。

#### 調査概要

調査日 令和3年7月20日（火） 14時00分～16時00分

調査場所 神埼市役所 神埼庁舎（本庁） 4階 委員会室

#### 対応者

神埼市 総務企画部	財務等担当理事	宮地 直仁 氏
	財政課契約管財係長	小柳 恒有 氏
	財政課契約管財係	藤原 浩高 氏
神埼市議会議長		中野 均 氏
神埼市議会事務局 局長		小柳 正輝 氏
神埼市議会事務局 議会係長		黒田 了平 氏

## 現状

神崎市は平成 18 年 3 月に、旧神埼町、旧千代田町、旧背振村の 3 町村合併により、神崎市となった。面積は 125.13 km<sup>2</sup>で、山林・原野等が約 66%、田畑 28%、宅地 5%強となっている。

神崎市は近年の少子高齢化や高度情報化、国際化の進展、地方分権など地域を取り巻く社会情勢の変化に適切に対応し、持続的に発展していくため、3 町村合併を行った。合併における「合併協定書」の「新市の事務所の位置」に基づき、神埼町の庁舎を本庁舎、千代田町及び背振村の庁舎を支所とし、現庁舎を有効活用するため、千代田庁舎に議会、教育委員会などの行政機能を一部分散していた。

しかし、本庁舎が建設以来 40 年以上経過し、老朽化、狭あい化、防災・災害対策の拠点としての耐震性の不安やバリアフリー化への未対応など、様々な問題を抱え、この問題と庁舎分散化による利用者の負担や事務執行における非効率等の問題解消のため、新庁舎の建設並びに議会、教育委員会などの市政機能統合に向け、平成 27 年に「神崎市本庁舎等建設庁内検討委員会」を設置し、新庁舎建設に関する重要事項について検討を始めた。

新庁舎建設については、「新市まちづくり計画」の変更により、合併特例債の活用が可能となったことから、この活用期限である令和 2 年度までの事業完了を目指して取り組むとこととし、市民にとって身近な庁舎とするため、平成 28 年 1 月に市民をはじめ学識経験者などで構成する「神崎市新庁舎建設検討委員会」を設置して「神崎市新庁舎建設基本構想」に関することについて協議、検討を行ったうえで策定された。

平成 28 年 11 月に神崎市新庁舎基本計画が策定され、その後、基本設計策定、実施設計策定、建設工事、新庁舎完成となっている。

## 委員会の意見

神崎市新庁舎建設の理由は、本庁舎の老朽化と分庁舎による非効率を解消することが主な目的である。

場所については、国道をはさんで反対側の用地に建設されており、浸水のリスクが否めないが、神崎市中心部はどこも平たん地であることと、市街地を離れることの憂慮から現在の用地に決定したようである。そこで、浸水を想定して止水板を強固にして浸水被害に対応されている。ただ庁舎の浸水対策はできていても周辺が浸水した場合、司令塔としての機能については疑問が残った。

庁舎内のインフォメーション機能は、ディスプレイなどを多く活用し市民に親切な対応となっている。また事務所の機能や配置については、市民のプライバシー保護（個室の相談室）や職員の安全を意識（個室等でのクレーム監視）

したつくりとなっている。特に市長室、副市長室、応接室などは数か所の非常口が設置され危機対応がなされていた。

建設にあたって、市民への説明会は、市三役で出向き市民への理解を求めたとのことである。また、パブリックコメントともに全戸アンケートを行ったが回答率は20%台であったとの事であり、市民の関心度については低いような感じがした。全戸アンケートについては回答率が低かったが、各種団体の利益を目的とした組織票が含まれる可能性があるので注意をしたほうが良いとのアドバイスがあった。また、建設資材の高騰や建設会社の人材不足及び働き方改革により、建設費の高ぶれ傾向にあるので、早期着工が建設費の軽減につながるとのことである。

神崎市は統合にあたって、住民サービス強化のため支所のリニューアルを行っており、今後の維持管理費も課題となってくるのではないと考える。

当市における嬉野市庁舎の建設については、耐震補強も含めた十分な調査を行っており、市民、職員の安全確保が喫緊の課題であるので、そこを十分に説明する必要があると考える。また、場所については、近年の自然災害を考慮し地盤の強固な場所、浸水の心配がないような場所の選定をするべきと考える。